

令和元年度

国民参加による気候変動情報収集・分析委託業務

愛知県気候変動適応センター
(愛知県環境調査センター)

主な業務内容

①ヒアリング

農業協同組合などから、気候変動影響に関する情報を収集

②アンケート調査

一般県民を対象にしたアンケート調査を実施

③ワークショップ

一般県民を対象にしたワークショップを開催

④収集した情報の分析、妥当性の確認

収集した情報の妥当性について、学識者にヒアリングを実施

⑤普及啓発

一般県民向けと小学生向けの2種類の啓発チラシを作成

①ヒアリング

農業協同組合や消費者団体など県下11団体と連携し、主に生産・供給側の視点からの気候変動影響に関する情報を収集した。

【意見（一部抜粋）】

愛知県では、7～8年前から出穂後20日間の平均温度が28℃になり、高温障害による外観・品質が低下し、1等米の比率が低くなり、平成30年には規格外に格付けされる米も発生した。

海苔養殖は、高水温と栄養塩不足により、かつてない厳しい養殖環境となっている。

5月に盛夏の如く暑くなり、10月はまだ暖かいため、春秋物の販売期間が短くなった。

突発的に売れるもの是对応しきれない。品揃えは過去データを参照するが、徐々に前年のデータが役に立たなくなっている。

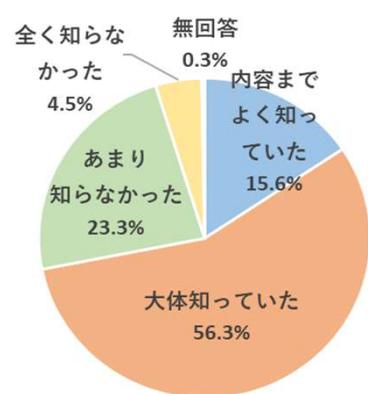
②アンケート調査

2020年10月から11月にかけて、一般県民を対象にアンケート調査を行い、合計1,356名から回答を得た。

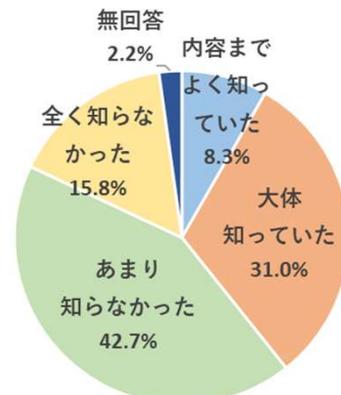
【アンケート調査概要】

調査期間：2020年10月11日から11月25日まで

調査方法及び回答数：対面・配付式・・・ 1,031 Webアンケート・・・ 325 （合計1,356）

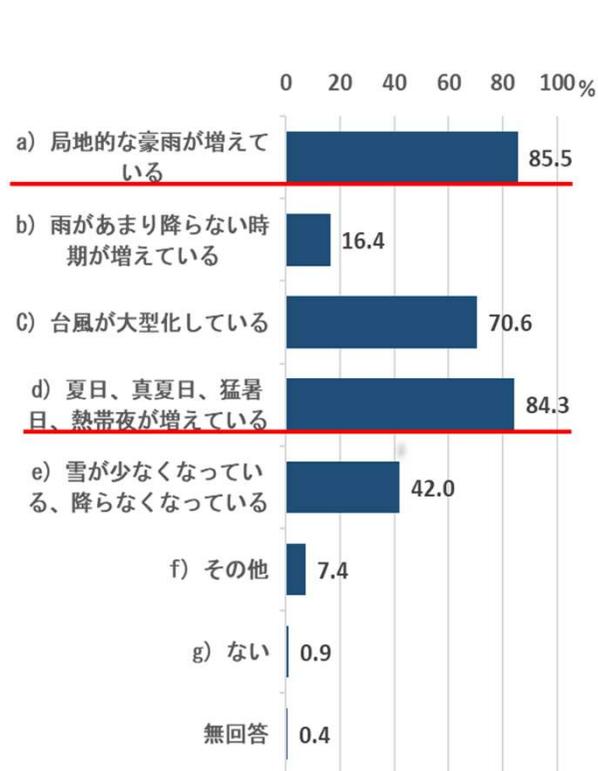


「気候変動」という言葉の認知度



「気候変動適応」という言葉の認知度

「気候変動」という言葉は約7割の人に認知されていたが、「気候変動適応」は約4割に留まった。

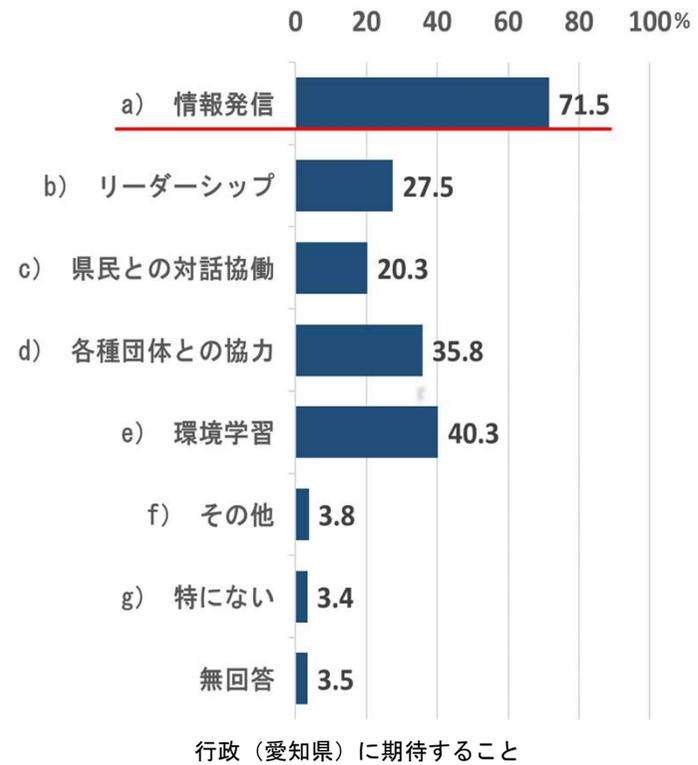
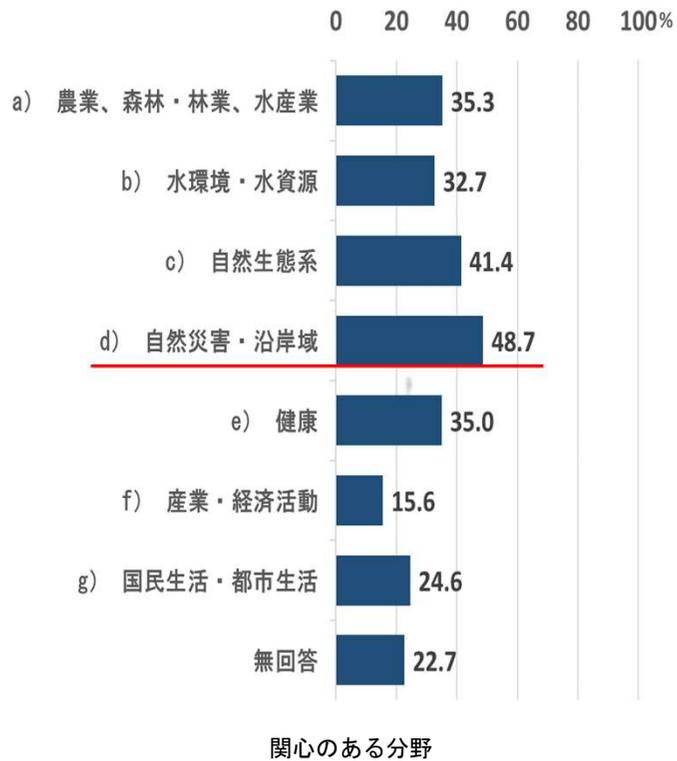


日頃感じている気候変動の内容



日頃感じている気候変動の影響

特に関心の強い「気候変動による変化」は、「局地的な豪雨が増えている(85.5%)」「夏日、真夏日、猛暑日、熱帯夜が増えている(84.3%)」で、「日頃感じている気候変動の影響」は、「水害・土砂災害が増えた(74.1%)」「熱中症を心配するようになった(67.7%)」であった。これらは、マスメディアにより頻繁に情報発信されていること、人の命や健康、財産に影響を及ぼすことが起因すると推察される。



「気候変動への適応」についても、「自然災害・沿岸域（48.7%）」への関心が最も高く、先の結果と合致している。
 「行政に期待すること」としては、「情報発信（71.5%）」が最も多い。

③ワークショップ

一般県民を対象にしたワークショップを開催し、
専門家による講演で知見を深めた上で、グループ
ワークを通して気候変動の情報収集を行った。



【ワークショップ概要】

日 時：2019年11月13日(水)13:30-16:30

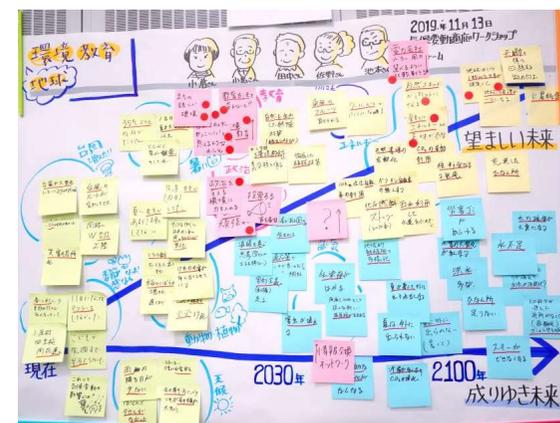
場 所：名古屋都市センター ホール

講 演：「気候変動への適応～身近な変化と世界の動き～」

名古屋大学大学院 特任准教授 杉山範子氏

グループワーク：「気候が変わると、私たちの何が変わる?!」

参加者：54人 (9グループ)



④収集した情報の分析、妥当性の確認

本事業で収集した情報に関する見解について、県内の学識者15名にヒアリングを行った。

【主な見解（一部抜粋）】

豪雨について

短期間に大量の雨が降る「集中豪雨」は増加している。
長期的に見ると年平均雨量自体は減少傾向にあるが、経年的な変動が激しくなっている。つまり、洪水や渇水が発生しやすくなる状況となっている。

雨の降り方により多様な水災害が起こることに理解を深めるとよい。
台風は大河川に、前線性の長雨は中小河川に影響する。
集中豪雨により下水から溢れる内水氾濫が起こる。

気温上昇、熱中症について

高齢者の熱中症は、急に症状が起こるのではなく、徐々に衰弱していき動けなくなった、というケースが多い。

農業、水産業等への影響について

白未熟粒等の発生で1等米の比率が低いのは日中の気温に加えて夜温が高いためである。夜温が高くと、日中に光合成で蓄えた糖を夜間に呼吸で使ってしまふ。
気候変動のスピードが速いため品種改良が追いつかず、今後、想定外の問題が生じる可能性がある。

海水温の上昇により、海苔を養殖するための網を海に出す時期が遅れている。
また、魚による食害や、窒素やリン等の栄養塩類の不足も海苔産業へ悪影響を与える原因の一つである。

成果のまとめ

本事業を通して、愛知県における特に重要な4つの気候変動影響が明らかになった。

①平野部における洪水のリスクが大きい

本県は濃尾平野、岡崎平野、豊橋平野と平野が多い地形である。雨の降り方が変わると既存の防災インフラでの対応が難しい場合も生じ、洪水リスクも大きくなると考えられる。

②温暖化とヒートアイランドにより熱中症のリスクが高い

名古屋市を中心とする大都市圏を有するため、気候変動とヒートアイランド現象の影響が相まって、局所的な豪雨や熱中症、身近な自然の変化が起こることに十分注意する必要がある。

③気温、海水温上昇により農業・漁業が大きな影響を受ける

本県は第一次産業も盛んであるため、農作物の不作や品質低下、農業従事者の体調管理が深刻である。また、漁業は社会的要因によっても変動するが、過去の経験が役に立たないほどの変化・影響は確実にある。

④顧客ニーズの変容により、サービス業が大きな影響を受ける

本県は第三次産業の割合が過半数、第二次産業の割合が4割を占める。消費者のライフスタイルやニーズの変化によって、間接的な影響を多分に受ける可能性がある。